

歴史・文化を通した地方創生^{とお}

～「かるた」によるシビックプライドの醸成

内川 信幸

はじめに

2014年の第2次安倍改造内閣発足時に地方創生が発表された。各自治体では、地方版総合戦略の策定を行ったが、その中で、多くの自治体が「シビックプライド（都市に対する誇りや愛着）の醸成」を掲げている。自治体が地域の活性化策を考える際、市民の誇りにつながる地域の歴史や文化を見直す取り組みが多くみられる。

本レポートでは、日本で古くから馴染みのある「かるた」を通して、その歴史的つながりや、近年、空前のブームとなっている人気コンテンツ『ちはやふる』との関係性など、さまざまな切り口からシビックプライドの醸成につなげている地方創生の取り組みを紹介する。

1 空前のブームで急増する「競技かるた」人口

『秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ
我が衣手は 露にぬれつつ』

この天智天皇の歌を一番札とする、藤原定家が選定した「小倉百人一首」。この小倉百人一首を使ったかるた取りを、競技の世界にまで高めたものが「競技かるた」である。2017年1月、九州大学4年の鶴田紗恵6段（現在、九州大学大学院）が、前クイーンとの3番勝負（クイーン戦）に勝利し、第61期クイーンとなった。九州かるた協会（福岡県）の選手としては30年ぶりの快挙であり、マスコミにも数多く取り上げられたので、ご存じの方も多いのではないだろうか。

また、競技かるたに魅せられた女子高生の青春を描いた少女漫画『ちはやふる』（著：末次由紀・講談社）で興味を持たれた方も多いだろう。『ちはやふる』は連載開始から10年、テレビアニメとしても2期にわ



▲第49回全国競技かるた女流選手権大会（2017年6月18日開催）（出所：日刊県民福井）